

仙人通信 170 赤鞍ヶ岳(1299m)

赤鞍ヶ岳は道志村役場の北側に位置し、朝日山と呼ばれる西峯(1299m)とワラビタキと呼ばれる3等三角点の東峯(1257m)がある。

上記の2つの峰と役場を結んだ逆三角形のコースを廻ることにした。

国道沿の民家の間の幅1m程の道に朝日山登山口と書かれた小さな標識がスタート点だ。

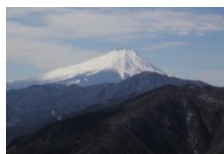
10m程登り六地藏が祀られた、その先の国道から上がって来た林道へと合流する。更に林道を100m程進むと富士見平の標識があり、菜畑山の肩に富士山が望める。その先の獣避けの金網の大きな扉を抜け、10分程歩いた左手の山際には秋葉神社が、更に10分程で朝日山と赤鞍ヶ岳の登山入り口の標識だ。5m程の高さの崖をよじ登ると檜林となり、踏み跡を頼りに5分程登ると檜林と水檜等の落葉樹で分断された尾根道だ。梢越しに両峰の山頂を結ぶ尾根を眺めながら檜林を更に20分進むと、今度は西側が水檜の林越しに富士山が綺麗だ。登り始めて最初のピークである入道山山頂に1時間で到着。10分程で鞍部、更に15分程登ると檜林から抜け出すも、トラロープが張られた急斜面の上に昨日の春一番で枯葉に埋もれた足元を確認しながらの登りだ。更に30分程要し秋山峠(道志村と秋山村結ぶ)である。ここからは菜畑山・今倉山・御正体山の後ろに綺麗な富士山を望む事が出来た。コースは緩やかな登りとなり、スタートから2時間10分で、赤鞍ヶ岳の西峯(朝日山)の山頂である。ブナ等の落葉樹の林越しではあるが360°の眺望だ。秋山峠に戻り厳道峠方向にある第二の赤鞍ヶ岳に向かう。この尾根の南側は削ぎ落され崖、そして北側は緩やかな山体にブナの綺麗な林である。ここからのコースは15cm程積もった雪の下で(踏み跡は皆無)で森林の境界を示す小さなコンクリートの杭を確認しながら進む。雪解けが進んだ場所では融けた雪が凍りつき滑ることから、軽アイゼンを付けて、1歩ずつ確認しながらの登山だ。

峠から45分程進んだ地点(ウバガ岩の上部)で展望が開け、東側から丹沢の黍殻山・蛭ヶ岳・大室山・加入道山・鳥の胸山・菰吊山そして先程の菜畑山から富士山だ。先程登った朝日山山頂の横には鳳凰三山・甲斐駒・北岳が、手前には大菩薩や小金沢連峰が、北側では雲取や大岳山が、手前には倉岳山や権現山だ。更に20分程で第二の赤鞍ヶ岳の山頂に着く。こちらは南面が檜林となり煤竹に覆われた三角点と寂しい。煤竹の開かれた部分に登山道を確認して進むと、天を仰いだ大きな漏斗を屋根に付けた県の雨量観測所である。鞍部を過ぎて登った点が道志と厳道峠の分岐点(山頂から15分)で再び檜林の中だ。10分足らずで檜林を抜け、梢越しではあるが目の前に先ほどの丹沢の山々左手には今辿って来たコースである。山頂から林道に55分で下山、更に車に戻るまで30分と全体で4時間55分(25800歩)の誰一人会うこともなく、小鳥の声のみの静かな雪山を楽しみました。(h 30・3・2)

赤鞍ヶ岳(西峯)



秋山峠からの富士山



赤鞍ヶ岳(東峯)



雨量観測所

